



決算概要



決算ハイライト

資金利益・手数料収入が増加するも与信費用は大幅増加 ⇒ 増収・減益となる。

【単体】	26/3期	前期との比較	
		25/3期	前期比
経常収益	371	368	+3
業務粗利益	300	302	▲2
資金利益	273	269	+3
役務取引等利益	25	24	+1
役務取引等利益（除く信託報酬）	20	18	+2
信託報酬	4	5	▲1
その他業務利益	1	8	▲7
国債等債券損益	▲0	7	▲7
経費（除く臨時処理分）	199	192	+6
コア業務純益	101	103	▲1
一般貸倒引当金繰入額	6	▲0	+7
業務純益	94	110	▲15
臨時損益	▲9	▲17	+8
株式等関係損益	10	▲5	+15
不良債権処理額（臨時費用）	22	16	+5
経常利益	85	93	▲7
特別損益	▲0	▲0	▲0
不良債権処理額（戻入益）	-	-	-
当期純利益	45	54	▲8
与信費用	28	16	+12
開示債権比率	1.72%	1.64%	0.08%
自己資本比率	11.66%	11.88%	-

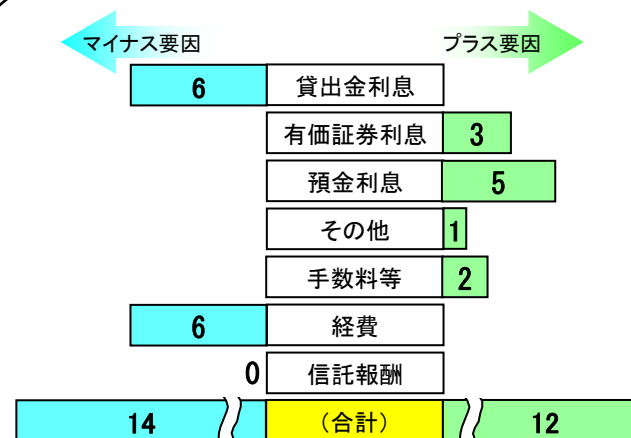
※自己資本比率は26/3期は新基準（バーゼルIII）に基づき算出。

●対前期比増減

	(億円、%)		
	平残	利回	利息
貸出金	+486 (+472)	▲0.15 (▲0.15)	▲6 (▲7)
有価証券	+18	+0.06	3
預金	+394 (+395)	▲0.03 (▲0.04)	▲5 (▲6)
その他	-	-	0 (0)
合計	-	-	2 (3)

有価証券関係損益はネットで+9

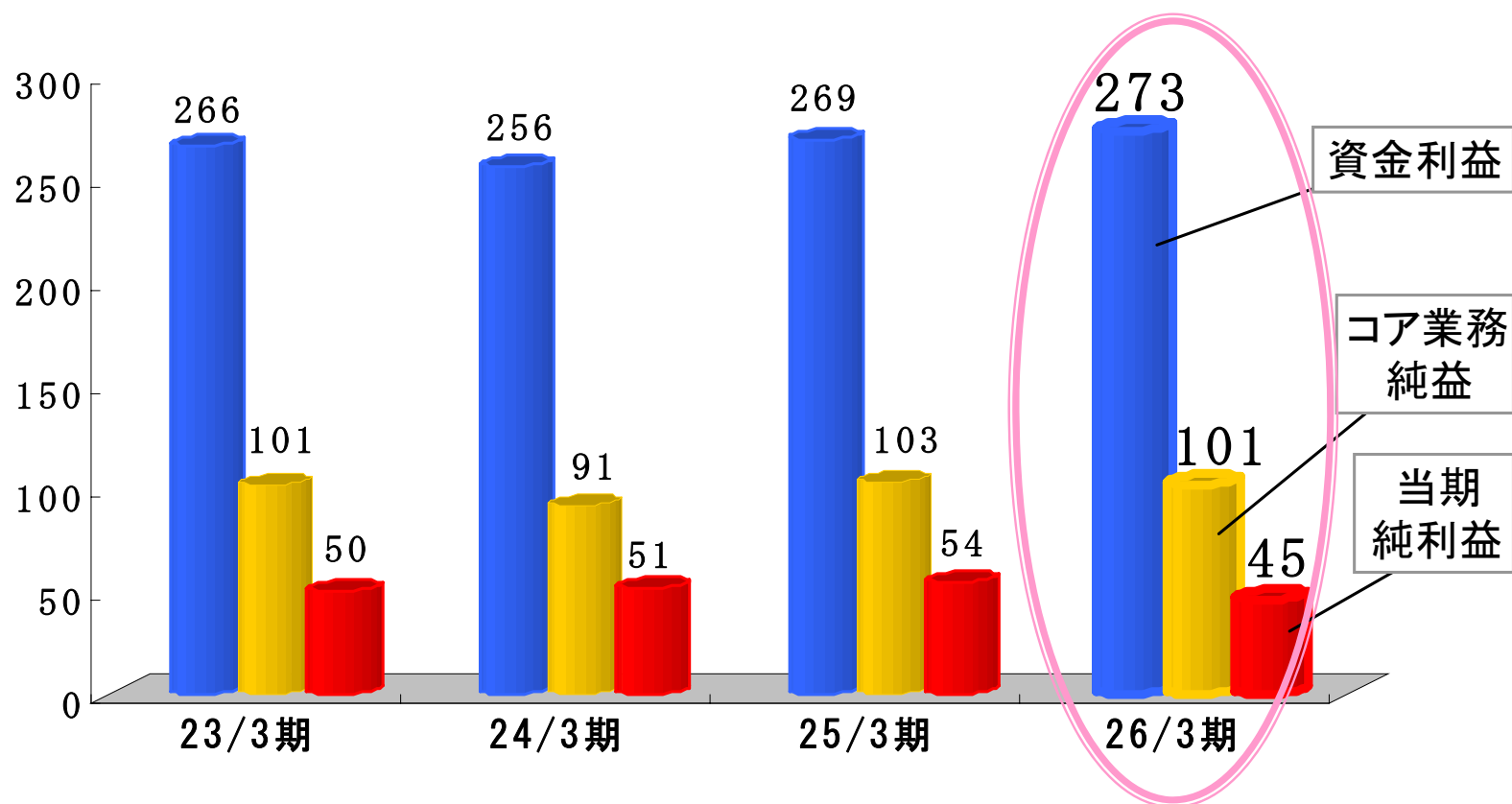
●コア業務純益の前期比



収益の推移 (コア業務純益 100億円台維持)

資金利益は増加したものの経費の増加によりコア業務純益減少

(単位: 億円)

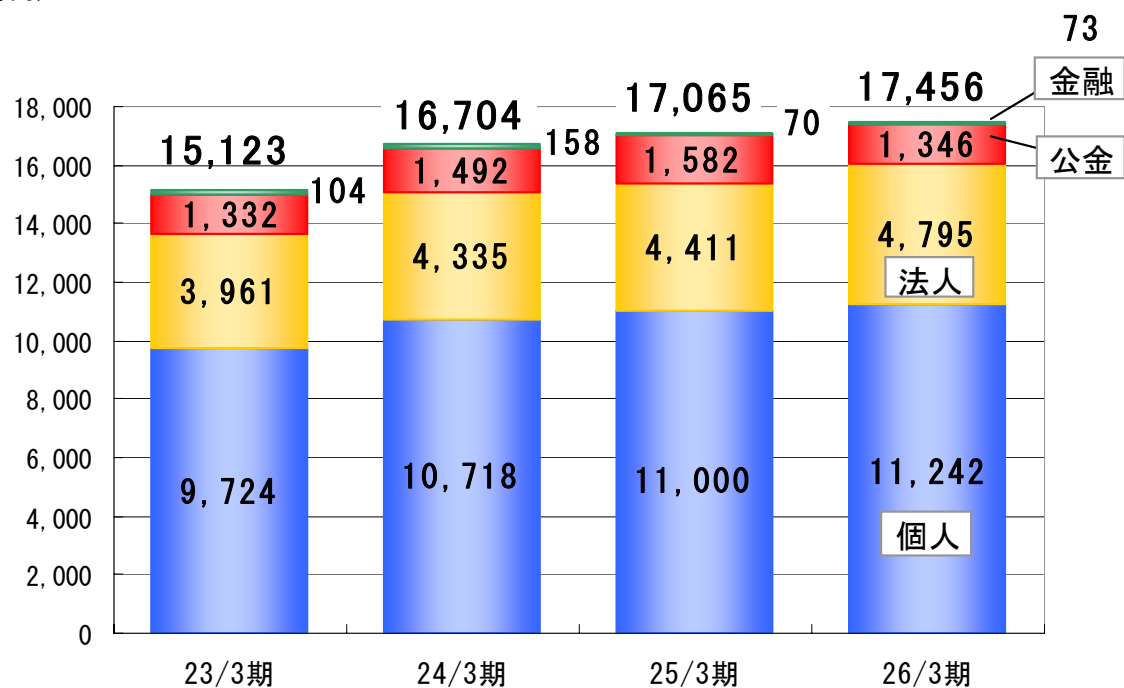


預金の推移（平残）



法人預金384億円増加（+8.7%） 個人預金241億円増加（2.2%）
 総預金は391億円増加（+2.2%）の17,456億円

（単位：億円）



法人預金
 流動性**増加**
 資金トレース強化

個人預金
 流動性**増加**
 年金・給振口座獲得
 定期性**減少**
 過去のキャンペーンの満期到来等



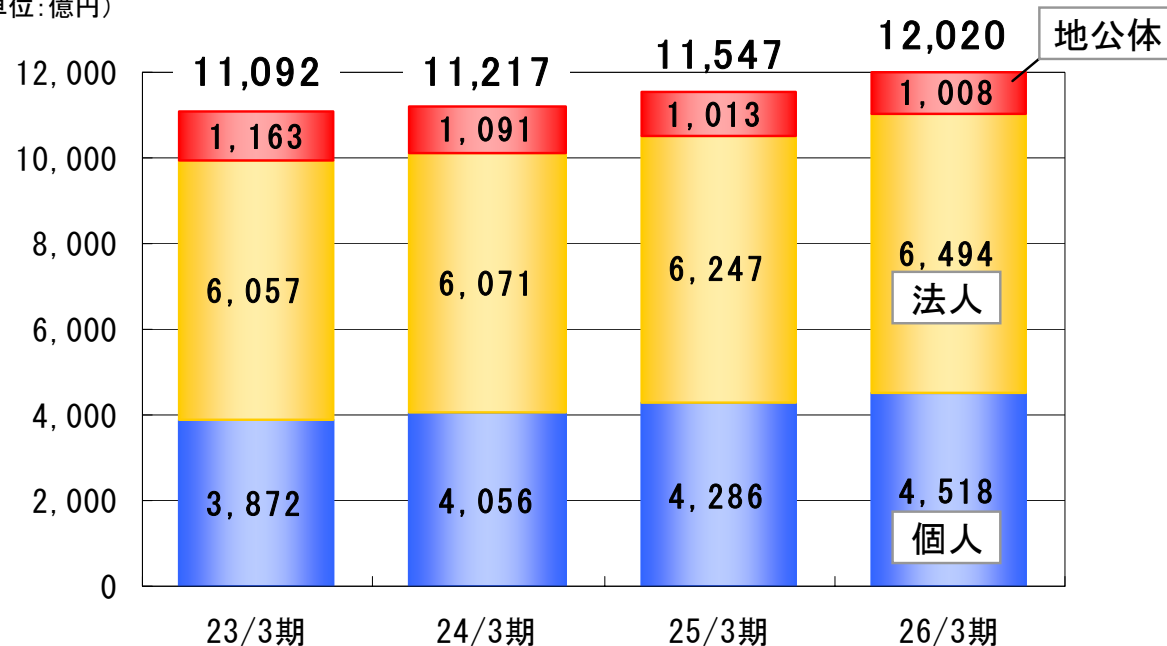
※ 信託勘定を含んでおります

貸出金の推移（平残）



事業性247億円増加 個人向け232億円増加
 総貸出金は472億円増加（+4.1%）の12,020億円

（単位：億円）



法人貸出
 増加要因
 アパートローン

個人貸出
 増加要因
 住宅ローン
 アパートローン

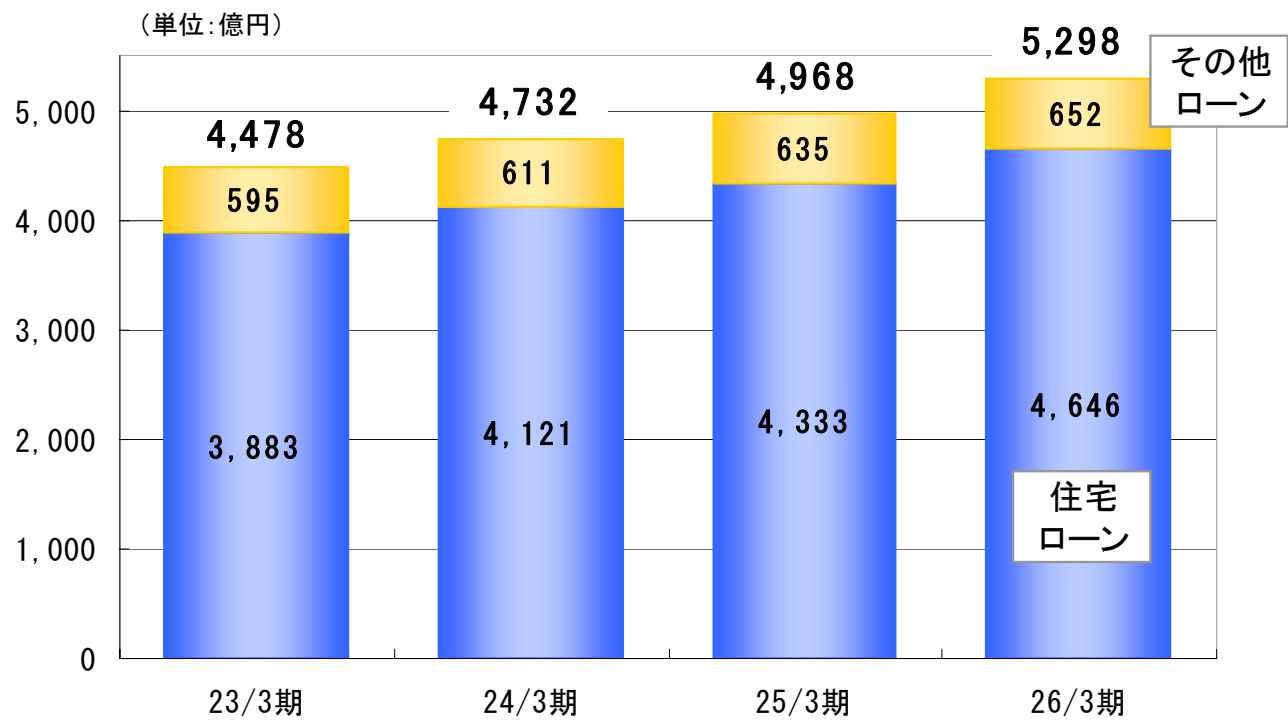
※ 信託勘定を含んでおります



個人向けローンの推移（末残）



住宅ローン313億円増加 その他ローン17億円増加
 個人向けローンは前期比330億円（+6.6%）の5,298億円



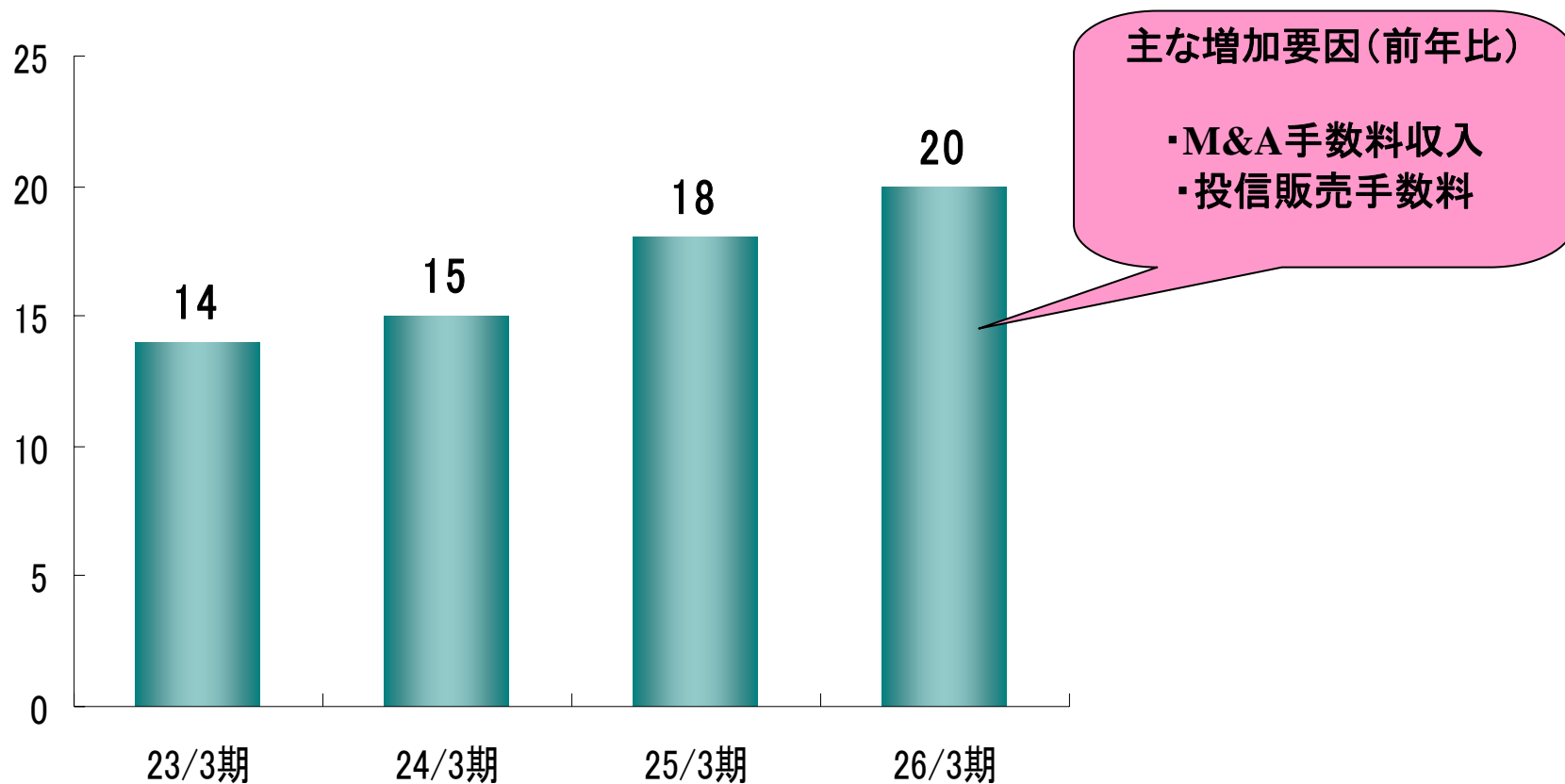
※ 信託勘定を含んでおります



役務取引等利益（除く信託報酬）の推移



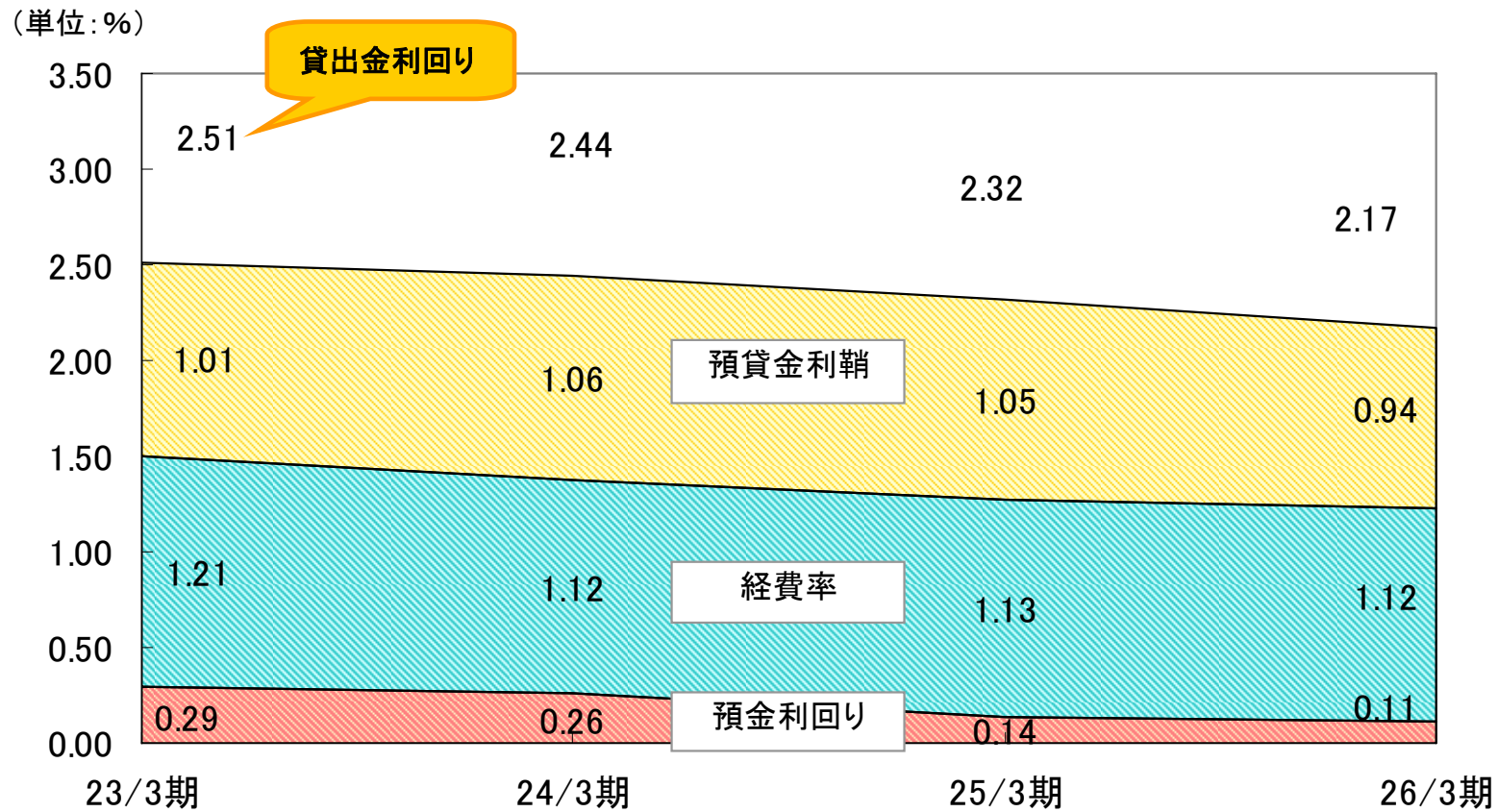
(単位:億円)



預貸金利鞘（国内）



預貸金利鞘

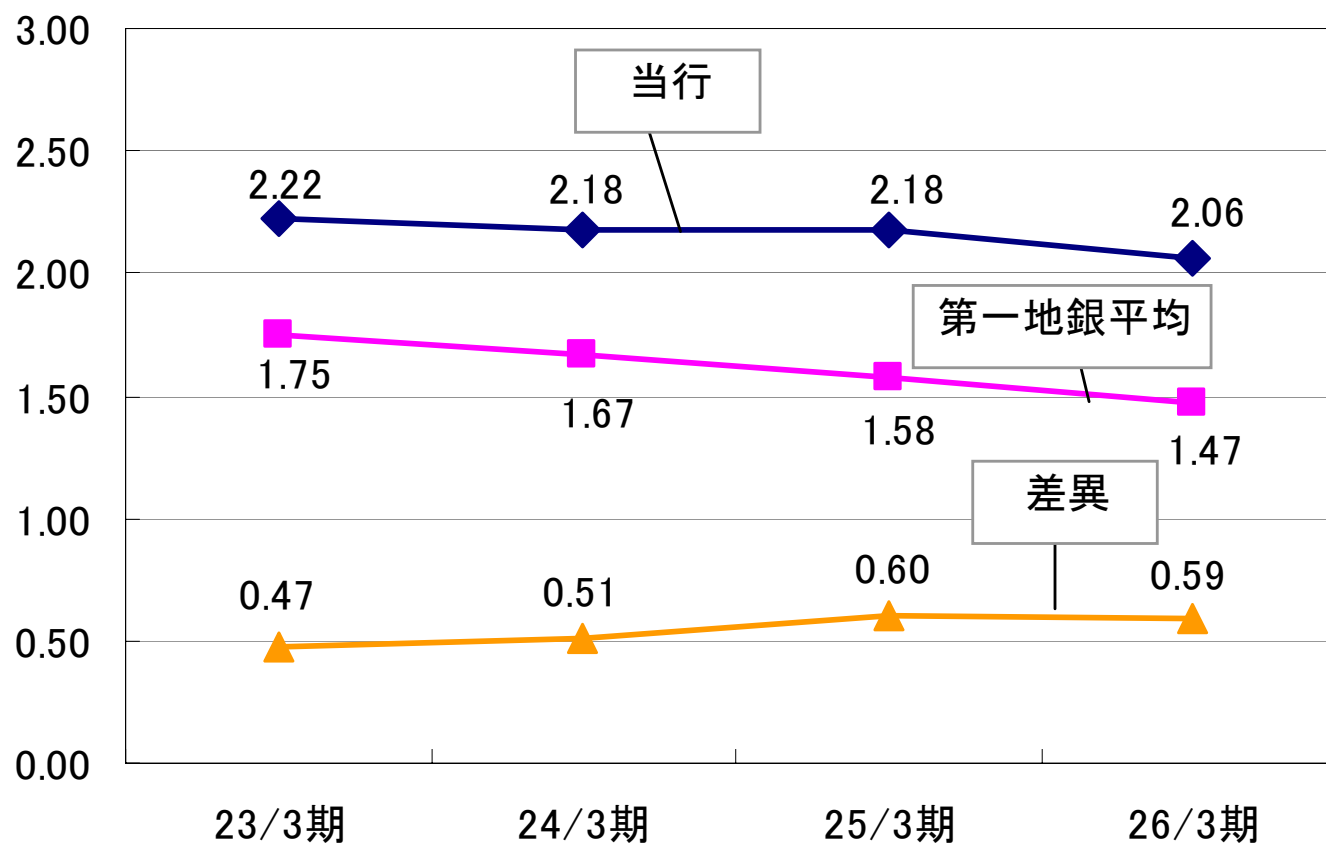


預貸金利回り差（国内）



預貸金利回り差（国内）

（単位：％）

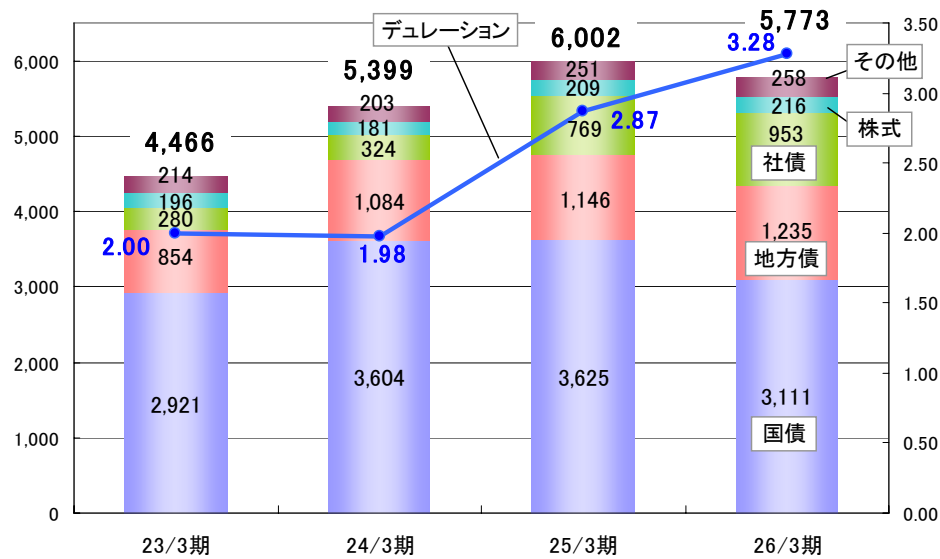


有価証券（末残）



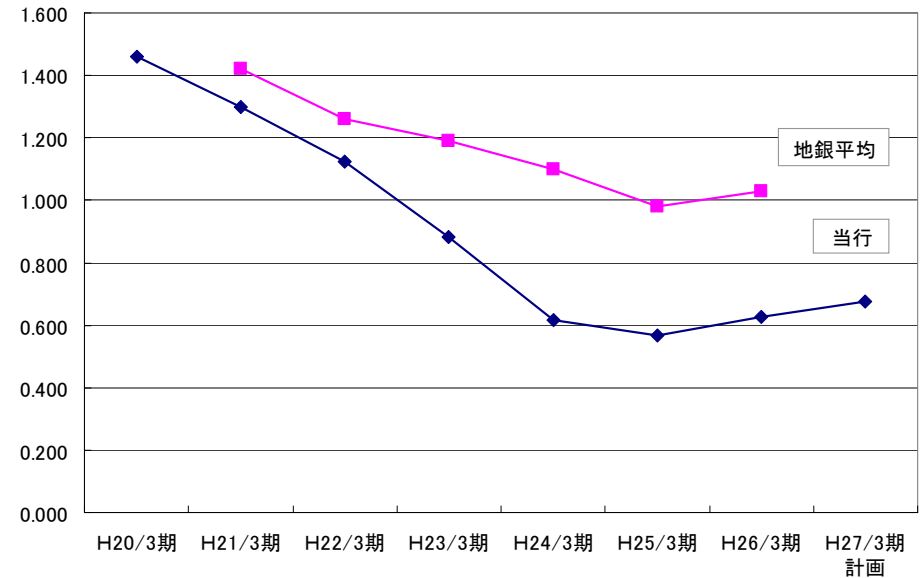
末残・デュレーション

(単位: 億円)



利回り

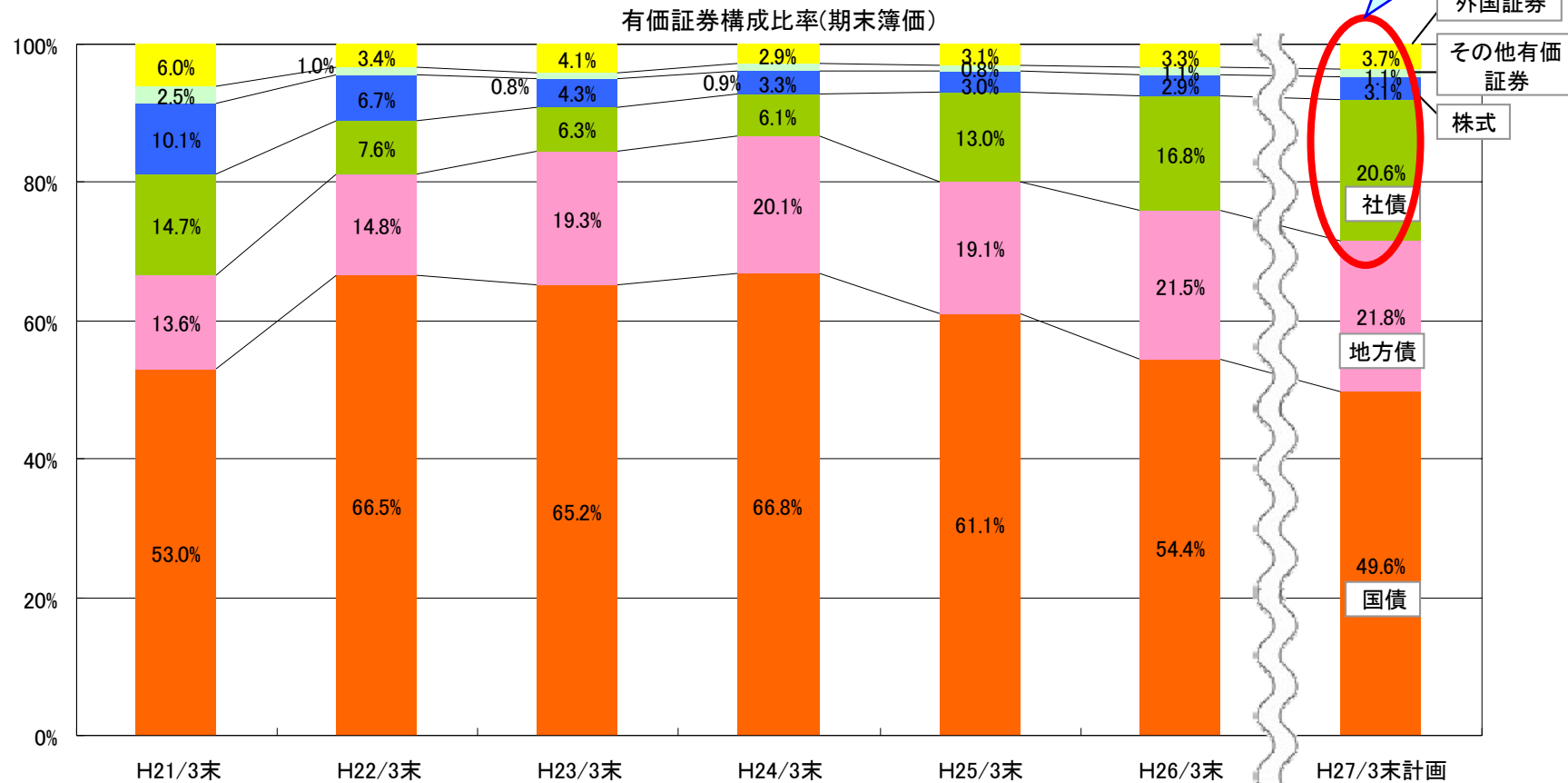
(単位: %)



有価証券アロケーション

アロケーションの見直し（国債偏重からの脱却）
リスクコントロールのもと利回り改善へ

今後強化する
エリア



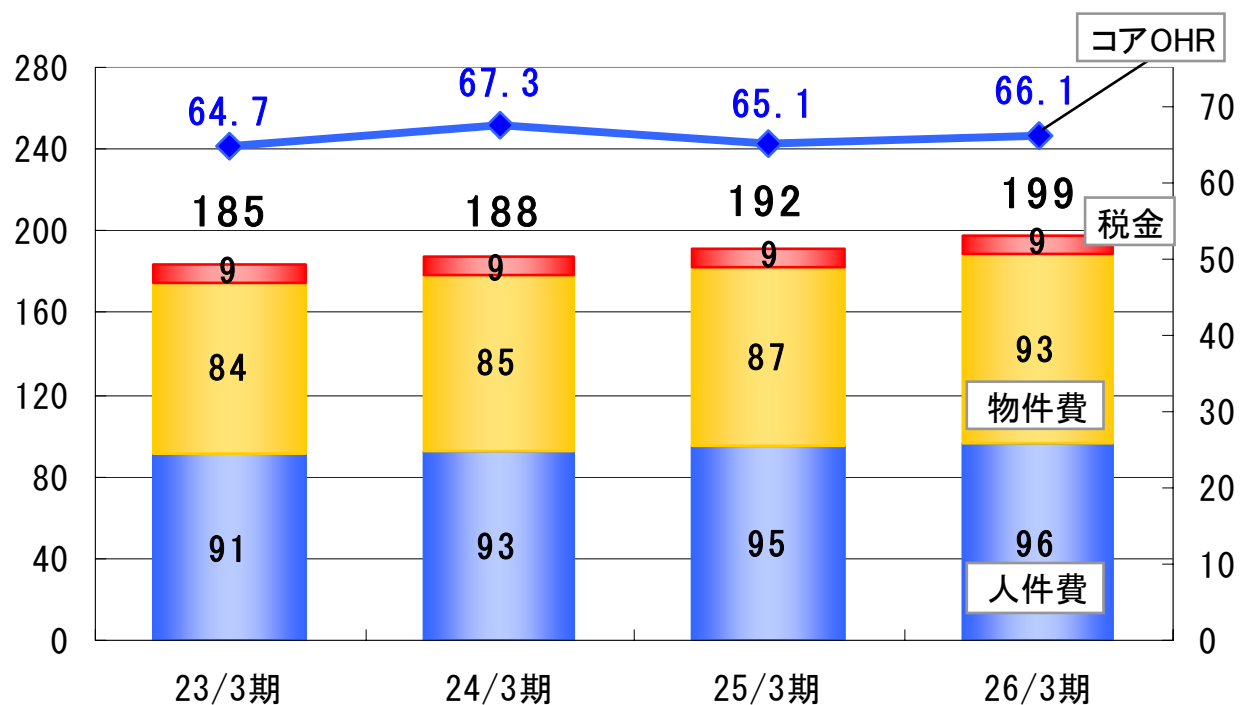
経費の推移



経費総額は199億円（前期比+6億円）

(単位: 億円)

(単位: %)



事務委託費増加等により
物件費増加(+5億円)

臨時雇用費増加等より
人件費増加(+1億円)

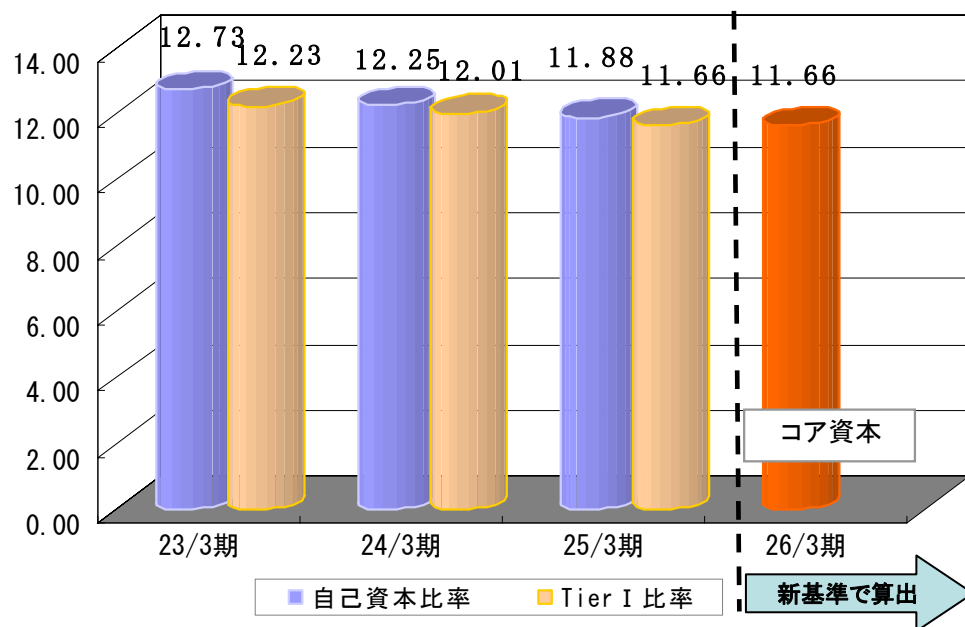


自己資本比率（バーゼルⅢ基準）



自己資本比率（国内基準）は、11.66%

（単位：％）



26/3期地銀平均自己資本比率
自己資本比率：11.60%

アウトライヤー比率

	総金利リスク量	アウトライヤー比率
平成26年3月末	4,202百万円	3.59%

パーセンタイル値基準

コア預金は流動性預金の期末残高の50%、平均満期2.5年として計算

資料) 当行 調べ

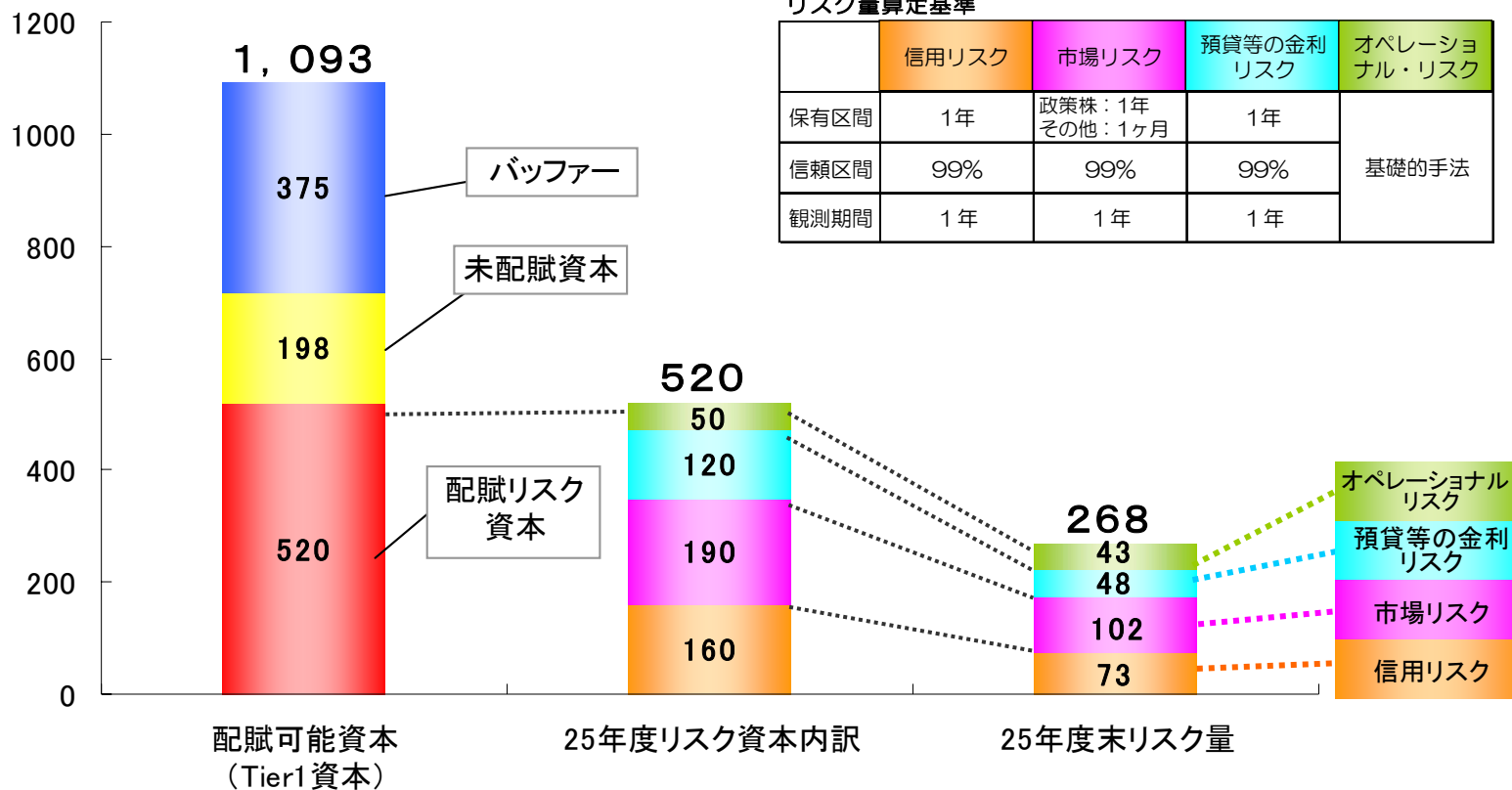


リスク管理 ~ 資本配賦 ~



Tier1の範囲内でリスクをコントロール

(単位：億円)

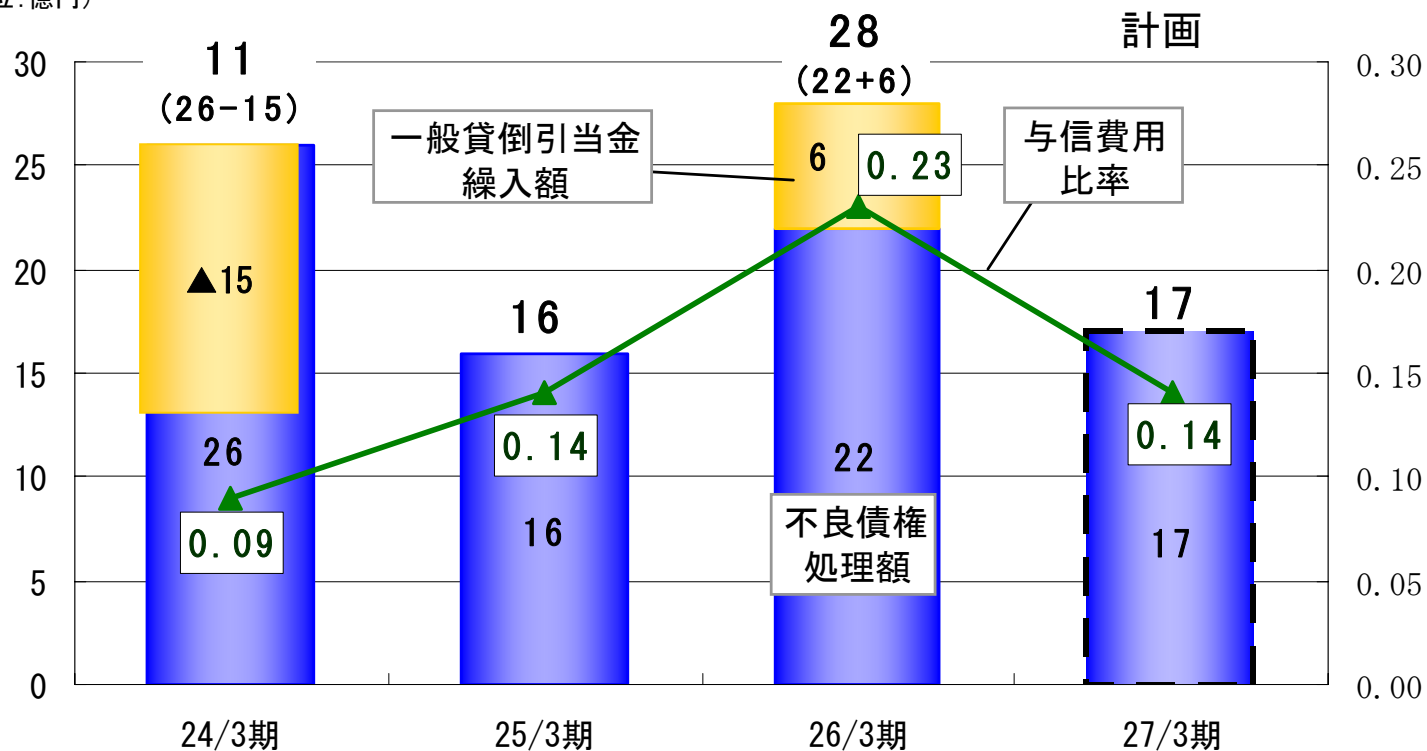


与信費用の推移



正常先、要注意先の実績率上昇、ランクダウン先の増加により
 総与信費用は、28億円（前期比+12億円）

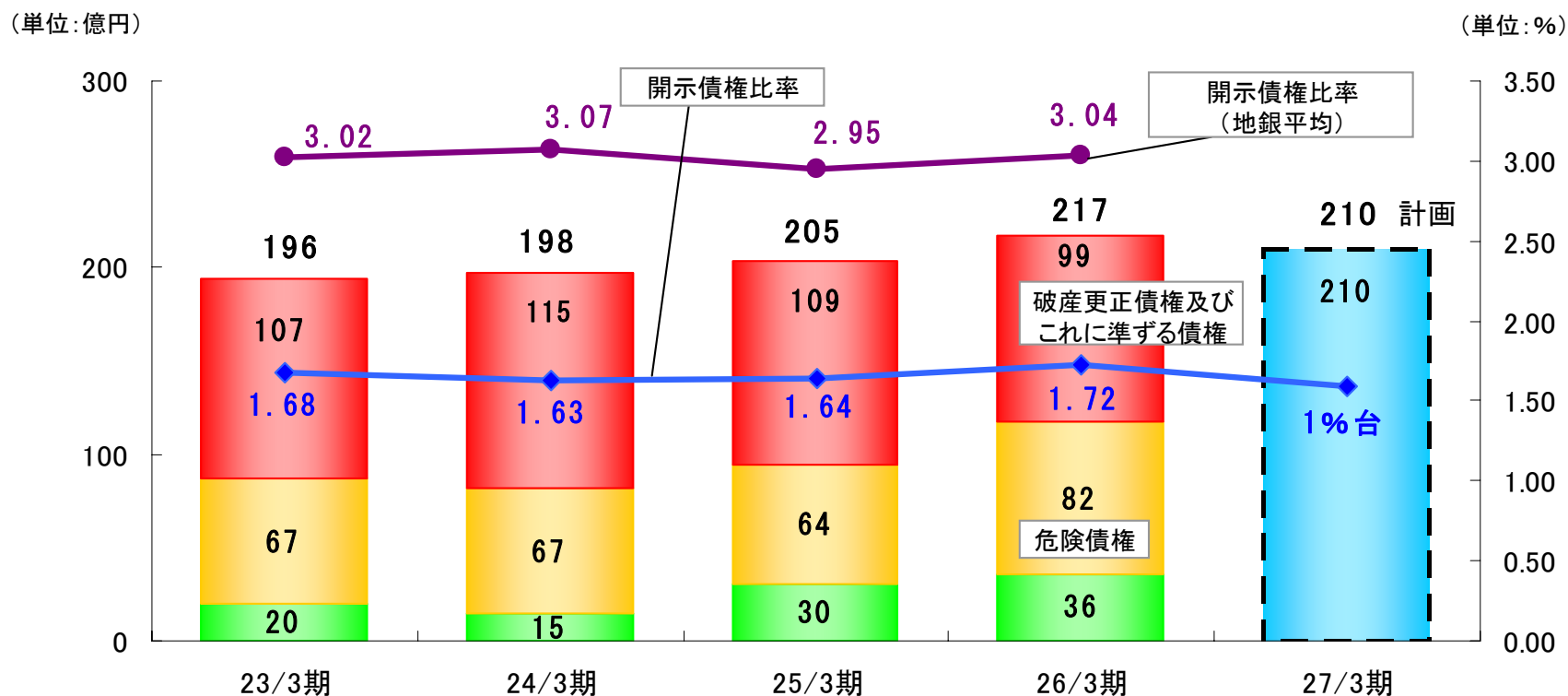
(単位:億円)



金融再生法に基づく開示債権

開示債権 217億円(1.72%)

危険債権の増加により開示債権比率は0.08%上昇



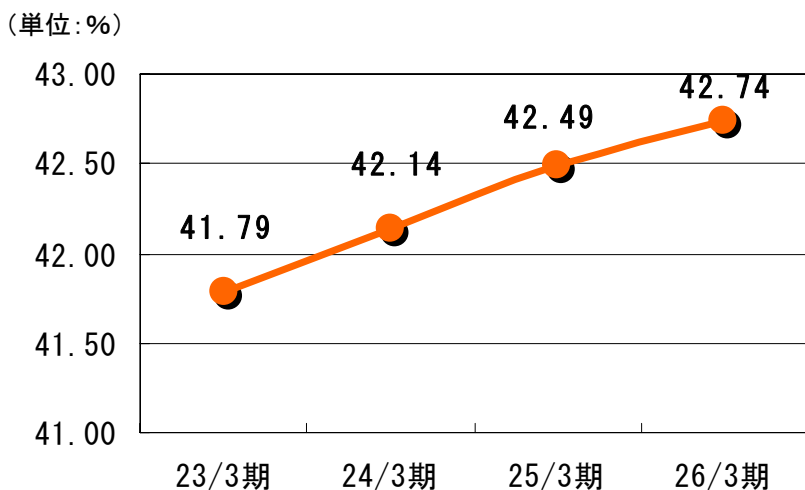
県内シェア（県内3行シェア）（平成26年3月期）



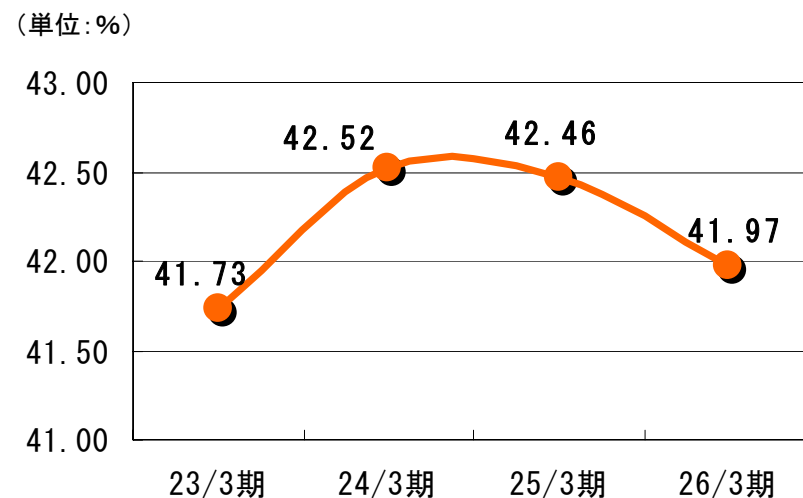
貸出金シェア上昇・預金シェア低下

貸出金シェア 42.74%（前期比0.25ポイントの上昇）
 預金シェア 41.97%（前期比0.49ポイントの低下）

貸出金（平残）



預金（平残）



県内地銀との比較（26/3期）

	当 行 (増収・減益)	A 行 (増収・増益)	B 行 (減収・増益)
経常収益	371億円	379億円	126億円
コア業務純益	101億円	84億円	20億円
当期純利益	45億円	34億円	13億円
自己資本比率	11.66%	10.50%	9.83%
預貸金利回り差	2.06%	2.04%	2.39%
コアOHR	66.18%	71.87%	80.13%
R O E	4.13%	3.91%	4.06%
融資量(平残)	12,020億円	12,477億円	3,629億円
資金量(平残)	17,456億円	18,364億円	5,773億円
時価総額	915億円	529億円	—
P B R(連結)	0.72倍	0.6倍	—